



<教育目標>

あたたかい心 ゆたかな知性 たくましい身体

平成 31 年 1 月 31 日発行

No. 13 校長 矢口 仁

高き希望に（第五中学校だより）

自分に克つ プレッシャーに負けない心

校長 矢口 仁

人間追いつめられて はじめて本音を吐く

その時どんな本音をはくか それが大事 相田みつを



紅梅

明日から2月、暦の上では春がきますが、まだまだ寒い月です。睡眠時間・食事をしっかりととり、外出後の手洗い・うがいを心がけ、健康な毎日を過ごしてほしいと思います。

さて、毎年この時期になると、自分が中学3年生の受験期を思い出します。1972年2月6日、札幌冬季オリンピックの70m級のジャンプ競技(今のスモールヒルです。)で、笠谷選手が金メダル、そして青地選手・今野選手もそれに続き、3人でメダルを独占。「日の丸飛行隊」と呼ばれました。その場面を、今でも覚えています。

日曜日の朝でした。のんびり起きると、テレビ中継が行われていました。一本目が終わった時点で、日本選手が上位を独占しています。二本目、日本選手は次々と見事なジャンプを披露し、最後の笠谷選手が大きな失敗をしなければ、メダル独占という状況でした。私は、テレビの前でもものすごく緊張しながら見ていました。

笠谷選手が助走に入りました。ぶれない低い姿勢、そこから勢いよく飛び出し、きれいな空中姿勢を保ちました。そして、着地。テレマーク姿勢をしっかりと決めて、飛び終わりました。79m、見事優勝！メダル独占という快挙を成し遂げた瞬間でした。

私は中学生の時、日記を書いており、「笠谷選手はすごい。日本全国の期待を背負った中、プレッシャーに負けず、今まで練習してきた力を全て出し切った。その精神面は見習いたい。自分もプレッシャーに負けないで、志望校に合格する。」という内容を書きました。

進路の選択・決定だけでなく、人生の中では様々なプレッシャーがかかる場面があります。部活動の試合、発表会、検定や様々な試験……それは、人との争いというよりは、結局のところ自分との闘いの場面が多いように思います。自分が目標に向けてやってきて蓄えた力を出し切れれば、結果はおのずとついてくるが多かったように感じます。

先月、宮澤ミシェルさんが講演会の中で、「やってやるという強い意志を持って努力を続ければ、いつかは乗り越えられる。」と語っていました。目的意識をもち、精神的な強さを身に付け、自分に打ち克つ力を高めていってほしいと思います。